

自然環境の変化と防災

～自然災害を自分事として考える～

■松本県ヶ丘高等学校 1年探求科の取組み

【地理歴史科の先生から相談】

生徒たちは松本で過去に発生した災害を知らない
「松本は自然災害が起こらない、地震だけ心配」との認識
・・・気象変化に伴う自然災害リスクについて、生徒たちにどう伝えるか

土木・環境しなの技術支援センター山浦氏に協力いただき出前授業を実施

『地理総合』の授業にて自然環境の変化と身近な防災インフラ整備を学び、
「自然災害から自分事として命を守る」について生徒たちが考えました

○1 時限目

山浦氏から

明治時代から行われている牛伏川砂防事業や過去の松本市街地での洪水などについて学ぶ

山浦氏の講義資料から



山浦氏の講義

松本市街地へ押し寄せた洪水（牛伏川の災害も同じ）

明治29年水害は近代の松本最大の水害



伝えられる女鳥羽川の水害
市街地に押し寄せた洪水

開智学校も大きな被害をうける。

薄川も大洪水



1 時限後半は、松本建設事務所職員が気象の変化と最近の県内での大雨災害等を説明。また、砂防堰堤等により自分たちが守られていることを知る。 →

○2 時限目

自然災害に対し、自分事として「命」を守るにはどうするか
グループワークにてディスカッション



県内での気象災害を説明↑

グループワーク進行役の松建所長↓

生徒からの感想（抜粋）

- ・100年も昔から存在するものが私たちの生活を守ってくれたなんて知らなかった。
- ・私たち自身が危機意識や知識を持つことが大事で、結局自分自身を守るのは私たち自身
- ・昔の人からの教訓や教えが大切で、それを引き継いでいきたい

